

## 地域の概況

- (1) 校区は砺波平野の東端に位置し、平地から山間部に広がる。校区は下記の4地区からなり、校区全体の面積は砺波市の約30%を占める。
- ① 校区には交通量の多い国道や県道が走り、農業用水路も多い。平成23年に国道359号線のバイパス道路となる「となみ野大橋」が開通し、現在、その延長として「いかるぎの大橋」が建設中である。そのため、般若地区内において、一般道の交通量の増加や建設工事車両の増加が認められる。工事の進捗状況に合わせて、通学路の変更や見直しを行うなど、登下校の安全に十分に配慮している。
  - ② 校区が広範囲で地理的環境も異なるため、地区により生活や文化に特色が見られる。地域の人々は連帯意識が高く、学校教育にも関心・理解があり協力的である。三世帯同居の家庭が多くを占め、両親共働きが多い。
- (2) 豊かな自然に囲まれ、史跡や体育的施設等も多く、最適な教育環境である。

地区\項目	面積 (km)	人口	世帯数	児童数
般若	8.65	1,819	580	77
東般若	4.88	1,379	426	89
梅檀野	9.46	1,187	375	44
梅檀山	14.45	407	160	17
合計	37.44	4,792	1,541	227

(H30.4.30)

## 学校の概況

本校は般若、東般若、梅檀野、梅檀山の4地区の統合校（般若、梅檀山は先に統合）であり、今年が開校37年目である。

- (1) 主要施設
- ・敷地33,457㎡
  - ・校舎(延)4,322㎡
  - ・運動場16,657㎡
  - ・体育館1,416㎡
  - ・プール375㎡
- (2) 学級編制
- 児童数は227名で、12学級（内特別支援学級2学級を含む）編制である。
- (3) 通学の状況
- 校区が広範囲であるため、スクールバスや市営バスによる遠距離通学児童が、約54%を占めている。
- ① スクールバス利用児童（東般若、梅檀野地区児童）・・・133名
  - ② 市営バス利用児童（梅檀山地区児童）・・・17名
- (4) 児童の実態
- ① 学習面では、主体的に学習に取り組む様子がみられる。学力調査やチャレンジテストの達成率等が向上し、成果が上がってきた。県平均に届かない教科もあるため、より一層の授業改善に努めている。家庭学習では、指示された宿題はするが、自主学習に取り組めない児童や学習時間の確保の難しい児童もいる。

「話す」「聞く」について学年に応じた指導を行い、学び合いができる集団づくりや、家庭学習強調週間を継続し、保護者の協力を得て家庭学習の充実と習慣化を図っている。

- ③ 学校行事を児童の主体性を育てる場として取り組んできた。児童は、運動会の団活動や学習発表会での自主発表等を通して、自分から進んで活動に取り組むようになってきている。それを生かし、授業や児童会活動等、日常の学校生活において主体性を発揮できるよう働きかけている。
- ④ 児童は責任感があり、花や自然を慈しむ心をもつ児童が多い。異学年集団としてのまとまりがあり、給食や清掃、集団登校の際は、上級生が下級生の世話をしている姿がみられる。また、児童の中には、相手の気持ちを考えることができず、自己中心的な言動をとる児童や特別に支援を要する児童もいる。集団の中での役割を自覚し、互いに助け合う活動を工夫している。
- ⑤ 友達と誘い合って外で遊ぶ児童が多い。スポーツ少年団や地域のスポーツクラブへの加入率が高い。これまでの「チャレンジ3015」の取組から、児童が体を動かす場面が広がってきている。また、校舎内に常設してある「クライミングウォール」が日常的に活用され、握力やバランス感覚の向上が見られてきた。さらに、自分で体力の向上における目標を設定し、進んで体力アップができるよう働きかけていく。

(5) 児童数の推移

年度別児童数 (H30.5.1現在) (人)

平成 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
21	41	35	27	41	36	33	213
22	36	40	36	27	41	35	215
23	40	36	41	36	27	41	221
24	30	40	35	40	35	27	207
25	40	30	40	34	40	36	220
26	34	40	31	42	34	39	220
27	26	35	40	31	41	34	207
28	41	28	35	41	31	40	216
29	39	41	27	35	41	30	213
30	43	39	42	27	35	41	227